

この本、
いかがですか？

“学習者を安全基地に 導くための必須スキル”

評者

渡辺大地

株式会社アイナロハ代表取締役／札幌市立大学看護学部非常勤講師

「今」からグループの中で、1 から 10 まで数えてもらいます。最初に“1”を言う人を決めますが，“2”以降は空気を読みながら誰かが一つずつカウントしていくことにします」

これは、本書の中で紹介されているアイスブレイクの一つです。私は産婦人科や保健センターなどで両親学級ファシリテーターを仕事でさせてもらっているのですが、アイスブレイクには目がないのです。本書を拝読し、まず実践してみたのが冒頭で紹介した「10」までカウントしてみよう」(p.74)というお題です。両親学級のオープニングで受講者をグループ分けした後、出題してみました。

本書は看護師の授業やミーティングの際のアイスブレイク集ということですが、「緊張をほぐす」「集中力を高める」などのアイスブレイクの効果は、両親学級を受講するマタニティ夫婦にも共通して必要なものだと思います。実践の結果、反応は実にさまざまでした。空気を読むことがテーマのアイスブレイクですが、空気を全く読めずに滞るチームもあれば、空気を読み過ぎて一向に進まないグループ、何だか分からないけれど笑い声が絶えないグループ、いつまでたってもゴールするグループが出てこないものの、いずれもものすごく盛り上がり、一気に和やかな雰囲気になりました。

マタニティ夫婦の妊娠や子育ての在り方が家族によって千差万別なのと同様、看護師一人一



学生・新人看護師の目の色が変わる アイスブレイク 30

内藤知佐子／宮下ルリ子／三科志穂 著
本体 2200 円＋税
A5 判／医学書院／2019 年

人の良さや成長の方法も十人十色で正解はありません。ですが、ファシリテーターが自分では思っているほど、学習の場は多様な人を受け入れる環境、つまり「安全基地」になっていないものです。これを言ったら変に思われるかな？こんな質問をしたら場違いかな？——こんな気持ちのまま最後まで過ごさせてしまうようでは、ファシリテート失敗と言わざるを得ません。ファシリテートには慣れているから大丈夫、ではなく、慣れてきたからこそ新人の感覚・視点を見失わないために、アイスブレイクを取り入れてみよう、という気持ちが肝心です。

でも、気負わなくて大丈夫ですよ。本書には、想像するだけでもワクワクするようなアイスブレイクがたくさん掲載されていますので、自分のファシリテートする場でこれをやったらどうなるだろう？と想像を巡らせながら、楽しんで取り入れてもらえたらと思います。

「手元のノートに、1 円玉のサイズと同じ丸を描いてみて。……ホントにそんなに大きい？」これだけでアイスブレイクに使えるんです。どうですか、やってみたくなくなってきましたしょう？